

今週の為替相場見通し(2017年11月20日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		111.95 ~ 113.91	111.98	110.50 ~ 113.50
ユーロ	(ドル)		1.1639 ~ 1.1862	1.1791	1.1600 ~ 1.1850
(1ユーロ=)	(円)		131.94 ~ 133.86	132.21	131.00 ~ 133.00
英ポンド	(ドル)		1.3063 ~ 1.3260	1.3220	1.3100 ~ 1.3300
(1英ポンド=)	(円)	*	147.94 ~ 149.93	148.14	146.50 ~ 149.00
豪ドル	(ドル)		0.7536 ~ 0.7665	0.7563	0.7375 ~ 0.7675
(1豪ドル=)	(円)	*	84.64 ~ 87.10	84.81	82.50 ~ 86.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 鶴田 涼平

(1)今週の予想レンジ: 110.50 ~ 113.50 円

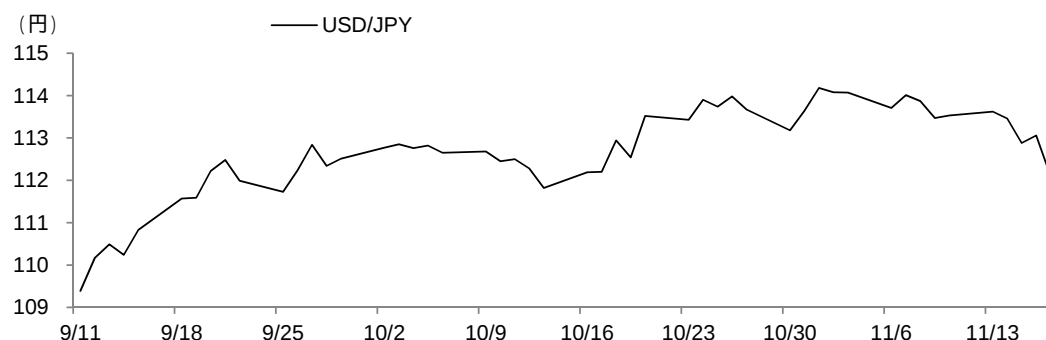
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半にかけて下値を切り下げる展開。週初13日のドル/円は113円台半ばでオープン。メイ英首相に対し40人の保守党議員が不信任を表明する書簡への署名に同意したと報じられるとポンド/円が急落し、ドル/円も113円台前半まで連れ安となった。14日は前日比マイナス圏で寄りついた日経平均株価が先物主導で上昇に転じると、ドル/円は一時週高値となる113.91円まで上昇。その後、国際エネルギー機関(IEA)が石油需要見通しを下方修正したことを背景に原油先物が急落、米株も軟調推移すると113円台前半まで反落した。15日は日本株が今年最長となる5営業日連続の下落を記録する中でドル/円は113円ちょうど近辺まで下げ、さらに米11月NY連銀製造業景気指数が予想を下回り米金利が低下すると112円台半ばまで続落。その後一時113円台前半まで急反発する場面があるも、共和党のジョンソン上院議員が税制改革法案に反対を表明したことが嫌気され112円台後半まで売り戻された。16日は日経平均株価が前日の下げ幅を全て回復する展開に113円台前半までじり高の展開。その後、この日発表された米経済指標が総じて予想比軟調な結果となると112円台後半まで下落。17日は、米大統領選へのロシア介入疑惑を巡ってモラー特別捜査官が同問題に関する文書の提出を命じたことが伝わると、112円台半ばまで軟化。その後は、ユーロ/円的大幅下落やロシア疑惑を背景にした米金利の低下などを背景に約1か月ぶりとなる111円台に突入し、一時週安値となる111.95円をつけた。その後も週末を前に上値の重い展開が続き、結局そのまま111円台後半で越週となった。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想する。足許で米税制改革法案に対する先行き不透明感が漂う中、先週はトランプ政権のアキレス腱ともなり得るロシア疑惑問題の再燃が意識される展開にドル/円は一段と下値を切り下げている状況。米税制改革法案を巡っては、既に上下両院の間で法人減税の適用開始時期を中心に差異が生じていた状況に加えて、先週公表された上院修正案では医療保険制度改革法(オバマケア)の見直しが盛り込まれる内容となり同法案の先行き不透明感が一段と高まった。オバマケア改廃法案を巡っては、一度挫折している経緯もある中、今回も民主党の反対が予想されることに加えて一部の共和党員からも既に反対の声が聞こえている。トランプ政権が法案成立を目指すクリスマスまで時間も限られる中、上院独自案の議会通過難航が予想される中でドルが積極的に買われる展開は考えづらい。12月の利上げも既に折り込みが進んでいる中でドル買い材料にも乏しく、今週のドル/円は引き続き上値の重い展開が基本線となるだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(11/13~11/17)の値動き: 安値 111.95 円 高値 113.91 円 終値 111.98 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1600 ~ 1.1850 131.00 ~ 133.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは上昇する一方、ユーロ/円は上に行って来いの展開となった。週初13日、1.16台半ばで取引を開始したユーロ/ドルは週安値1.1639まで下落する場面も見られたが、翌日に欧州中央銀行(ECB)主催のシンポジウムで各国中銀総裁の発言が予定されていることから様子見ムードの中、小動きの展開。14日、独7~9月期GDP(速報値)が前期比+0.8%(市場予想:同+0.6%)と予想対比良好な結果となったことからユーロ買いが加速し、ユーロ/ドルは米金利の低下もあって1.1805まで上昇。15日、米10年債利回りが2.4%を上抜けることができず、じりじりと低下したことからドル売りの流れとなり、ユーロ/ドルは約1か月ぶりの高値1.1862まで続伸。しかしその後は米金利が下げ渋ったことからユーロ/ドルは上げ幅を縮小し、1.17台後半まで反落。16日、ユーロ圏10月消費者物価指数(HICP、確報値)が前年比+1.4%と予想通りの結果となり、同水準での小動きの展開。17日、良好な米経済指標を受けてやや下落する場面も見られたが、1.17台後半では底堅い展開となり、同水準で越週。ユーロ/円は週初13日、132円台半ばで取引を開始。週安値131.94円まで下落する場面も見られたが、14日にはユーロ/ドルの上昇に連れ高の展開となり、133円台前半まで上昇し、15日には週高値133.86円まで続伸した。しかし16日にはドル/円の下落に連れ安となり、132円台後半まで反落。17日にはロンドンフィクシングにかけて132.07まで続落し、132円台前半で越週。

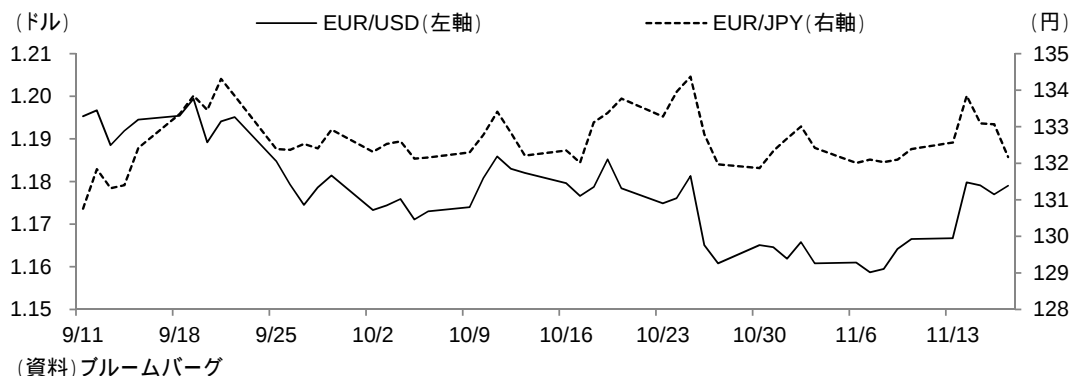
今週のユーロ相場は上値の重い展開を予想する。スペインの政局不透明感はマーケットの主要トピックではなくなっているものの、ドイツのメルケル首相率いる与党は9月の連邦議会選挙で大きく議席を減らした上、連立協議も難航、支持率も2013年以降で最低となるなどドイツの政局不透明感が高まっている印象である。10月のECB理事会では資産購入の縮小が決定されたが、期限については明言していない上、ドラギECB総裁はハト派な発言を繰り返しており、テーバリング観測は高まりにくい地合いか。テクニカル面では1.18台前半から1.18台後半にかけて一目均衡表の雲がある。先週後半はこの雲下限でユーロ/ドルの上昇は押さえられていた印象であり、レジスタンスとして意識されることで1.19台を試すには新規材料が必要だろう。同水準で推移していた9月にはECB理事会後にドラギECB総裁がユーロ高を懸念する発言を行っていることから、欧州要人によるユーロ高牽制発言への警戒感からも上値は重くなるだろう。今週の主な経済指標は22日(水)にユーロ圏11月消費者信頼感指数、23日(木)にユーロ圏11月マークイット製造業/サービス業PMI、ECB議事要旨、24日(金)には11月独IFO企業景況感指数の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/13~11/17)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1639 高値 1.1862 終値 1.1791

(対円) 安値 131.94 高値 133.86 終値 132.21



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3300 146.50 ~ 149.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着。週を振り返って対ドルでは上昇、対ユーロや対円では下落したが、いずれにしても値動きは小幅にとどまった。主要通貨の値動きは敢えてドルの全面安と言えたが、その要因には米減税案の先行きに対する不透明感が挙げられた。共和党下院案は16日に可決されたものの、今後予定される共和党上院案の採決には引き続き不透明感が漂う。ポンド軟調の要因としては、引き続き英のEU離脱交渉を巡る不透明感が挙げられた。もっとも、この間、同交渉を巡って目立った展開は確認されなかった。メイ首相の指導力の低下は明らかで、なにも進展が得られないこと自体が英政府の機能不全を物語るとして嫌気されたということだろう。英経済指標は、14日に英10月CPI、15日に7～9月失業率、同平均賃金、16日に10月小売売上高など主要指標の発表が相次いだ。ポンドが材料視した様子はほとんど読み取れなかった。

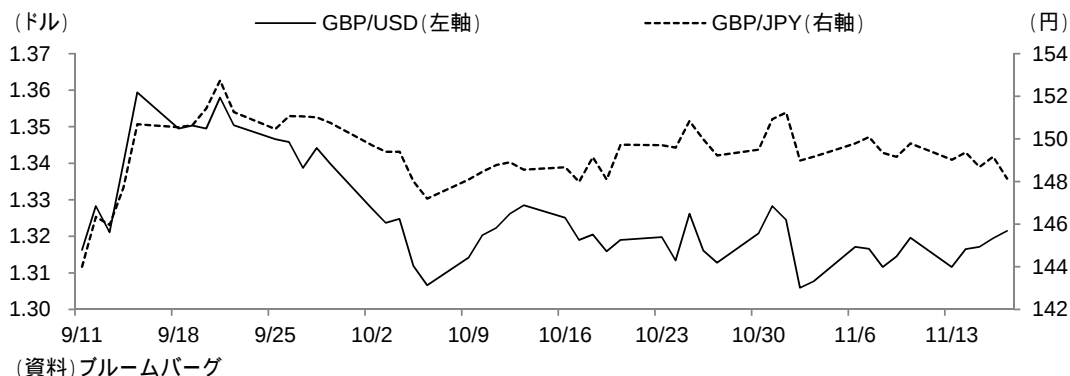
今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた軟調推移を予想。英のEU離脱をめぐる、英経済や英中銀金融政策をめぐる、新たにポンドの方向感に影響するような材料は期待薄だからだ。22日の英予算発表は重要だろうが、金融市場に与える影響という視点で注目点は少ない。英国内では、住宅建築予算の配分などに注目が集まっているようだが、英景気の減速、とりわけ生産性の伸びの鈍化が見込まれる中で、そもそも振り分けられる財源も限られている。むしろ、(残留派で、現在でもEUとの交易関係を維持したいとしている)ハモンド財務相と与党保守党強硬離脱派の内部抗争という文脈で、保守党内部から予算案を拒否する動きが出てくる可能性が警戒されている。こうした混乱は、仮に表面化すれば、メイ首相の掌握力の欠如をあらためて物語る要因として、金融市場からは嫌気されるのではなかろうか。英経済指標では21日(火)に英10月財政収支、23日(木)に英7～9月期GDP改定値などの発表が予定されるが、市場の注目はやはり高くない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/13～11/17)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3063 高値 1.3260 終値 1.3220

(対円) 安値 147.94 高値 149.93 終値 148.14



4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7375 ~ 0.7675 82.50 ~ 86.00 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル/ドル相場は軟調に推移した。豪ドル/円相場についても、豪ドル/ドルとドル/円の軟調推移が相俟って下落した。週初13日、0.76台半ばでスタートした豪ドル/ドルは、東京時間は同水準で揉み合っていたものの、欧州時間に入ると、欧州株・英国株下落を受けたややリスクオフの動きから豪ドル/ドルも0.76台前半まで、じり安の展開。前週末の世論調査にてターンブル豪首相の支持率が過去最低となったことも豪ドルの重石となり、対円でも87円ちょうど近辺から86円台半ばまで上値重く推移した。14日、東京時間、豪ドル/ドルは約4か月ぶりとなる安値圏にあったことから押し目買いが先行。ただし、欧州時間に入ってから、引き続き各国株式相場が高値圏からの調整売り地合となったことから、豪ドル/ドルを一段と買う流れとはならず0.76台前半で小幅推移した。その間、豪ドル/円も同様に86円台半ばでの小動きにとどまった。15日、豪7~9月期賃金上昇率が市場予想を下回ったことを受け、豪ドル/ドルは0.7620水準から0.7580水準まで、豪ドル/円は86.50円水準から85.70円水準まで急落した。北米時間に発表された米インフレ指標が市場予想比と同じ結果となり為替相場に与える影響は限定的となった一方で、株安基調継続や商品市況安を背景に豪ドル/ドルは一時、0.7573まで下落した。16日、豪10月雇用統計については失業率改善、雇用者数は伸び悩みと強弱まちまちな内容となり、豪ドル/ドル相場は上下どちらにも動けず、0.75後半で20pips程度の範囲で小幅推移した。豪ドル/円は東京時間こそ買戻し優勢だったが、86円水準で上値を押さえられると、海外時間には再び85円台半ばまで反落した。17日、東京時間、「日銀が国債買入れ額を減額」との報道やロシアゲート問題に関するヘッドラインを受けたドル/円下落につられ、豪ドル/円は85円台後半から、85円ちょうど近辺まで下落。その間、豪ドル/ドルも直近安値を下抜け、北米時間に発表された米住宅関連経済指標が良好な結果となりドル買いが強まると一時、0.7536まで軟化したが、原油先物相場の上昇にサポートされると0.75台半ばで越週した。豪ドル/円は海外時間も続落すると85円を割り込み、84.81円で越週した。

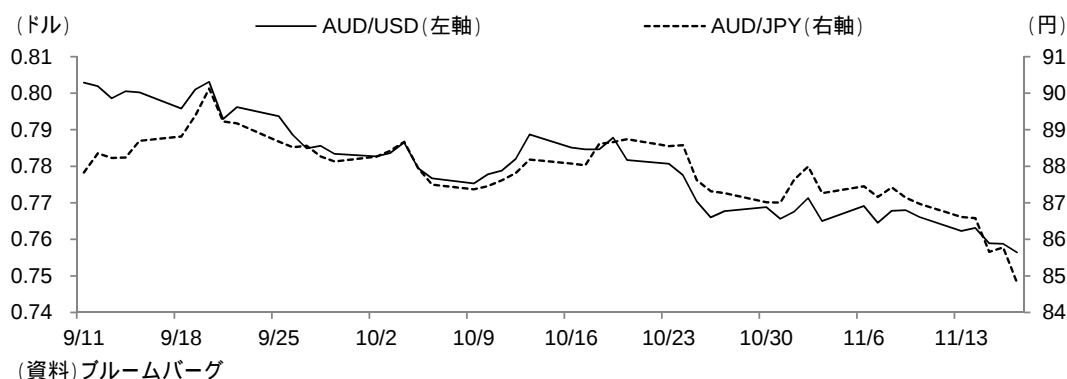
今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想する。豪自体の経済指標としては21日(火)の豪州準備銀行(RBA)議事要旨、22日(水)ウェストバック景気先行指数などが発表される。また、米国では22日(水)にはFOMC議事要旨が発表される。先週発表された通り、豪州の雇用者数は13か月連続でプラス圏推移するも賃金上昇率は依然として鈍く、労働市場のタイト化がインフレ上昇に繋がっていないことから、RBAは暫くの間、現状の緩和的な金融政策を据え置くとの見方が多い。また、株式相場が高値圏からの調整売り基調にあることもリスクアセットの動向に強く左右される豪ドルにとっては上値を抑える要因となりそう。さらに、二重国籍を巡る議員資格喪失で与党連合が下院の過半数割れとなったことは同国政権運営への不透明感として意識される。したがって、メインシナリオとしては対ドル、対円いずれについても豪ドルの軟調推移を予想する。リスクシナリオとしては、FOMC議事要旨の内容がハト派と解釈されドル売り(豪ドル買い)が強まることや米税制改革の進捗が遅れ、ドル反落となることなどが挙げられる。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/13~11/17)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7536 高値 0.7665 終値 0.7563

(対円) 安値 84.64 高値 87.10 終値 84.81



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。